

年会費 4000円（年会費、3000円＋会議会合費 1000円）
振込先 郵便 日本サーバス東海北陸支部 00810-5-79212

I 東海支部移動例会

支部恒例の移動例会が、9月17～18日過去関東支部会員だった会員復帰し東海支部会員となられた富士山のふもとの富士宮市にお住まいのMさんの素晴らしい広い新居にて開催されました。いつもメールを管理して下さっている若いホープIさんご夫妻も参加下さり総勢11名で楽しく例会を終えることができました。

議題としては、

- 1、 11月の台湾サーバスとの交流について、
- 2、 再来年のサーバス国内会議東海支部受け入れなどで和やかに開催された様子は、別便の例会風景スナップ写真を見て下さい。参加され



なかった方もよろしかったら是非次回例会に参加して下さい。会場を提供して下さいましたMさま本当にご苦勞様でした。参加された皆さんとてもいい雰囲気での会議を進められたのもM様ご夫妻の配慮だったのではと試みてみました。有難うございます。

東海支部会員相互の親睦も兼ねての台湾交流旅行の方は、着々と計画進んでいます。今の所参加者は、10名です。こちらからの参加者は、48歳のIさんご夫婦のぞいて60歳代が多いのに対して、向こうは、もっとお若い方が多そうなのでがっかり?されるのでは?と危惧しています。

（文責 山本常美）

II トラベラー報告・受け入れ報告 K

- 1) S e r v a s 旅行 2012.9.4～9.20 17日間 シカゴーインディアナ（ブルーミントン）ーニューヨークーフィアデルヒアーワシントンDCと廻ってきました。
 - シカゴは立地条件が良く、案内までしていただきました。
 - ブルーミントンの方はS e r v a s 受け入れ初めてと仰っていました。
 - ニューヨークの方は二度目で“いつでもwelcome と言ってくれています。
 - フィラデルフィアの方は2歳の子どもがいて可愛かったです。奥様が働いていてちょっと大変でした。私が夕食を作りました。
 - ワシントンは大ベテランで“S e r v a s は如何にもてなすべきか?を教えられた気がします。

5か所ともServas宅にお世話になりました。2泊ずつ（計10泊）他は友人宅、教え子宅にstayし、ホテル2泊だけでした。

2) 受け入れについて

- 2011. 10. 24, 25, 26 スペイン 女性1名（来日2回目）
- 2011. 11. 18, 19, 20 韓国 男性1名
- 2012. 4. 24, 25, 26 カナダ 男女2名
- 2012. 8. 23, 24, 25 メキシコ 男性1名
- Servas 以外でアメリカ人大学生2名（名古屋外国語大学奨学金留学生）1週間逗留 2012. 2. 29～
- 日本人 Servas 3名 2012. 4. 4, 5, 8 3泊

以上簡単なお報告です。（Time Lagもとれないままに）

ところで帰ってきたらドイツのデュッセルドルフ近郊の方からこんな便り（mail）が来ていました。

“日本のServas名簿を見ていたら君達の住所と名前を見つけた。ドイツへ来る計画はないか？是非私の所にstayしなさい。わたしは諏訪の〇〇ファミリーの所へ行ったことがある。諏訪在住と知り、嬉しくなってメールした。”

なんと親切な方でしょう。その上私はその〇〇家とたまたま深い関わりがあり、親しいのです。

Servasはなんて素敵なFamilyでしょうと改めて感じています。感謝しつつ

Ⅲ 受け入れ報告 I

2012. 4/13-4/14 グレゴリさんとコラリさん御夫婦、フランスより。

5年前にパリでTさんとサーバスステイさせていただいたご縁で、私の子どもに会いに来て下さいました。1日目は、我が家で、日本に住むフランス人アーティストの知人らをよんで晩御飯パーティー。二日目は、Tさんレストランで食事後みんなでレストランに宿泊させていただきました。三日目は、覚王山祭りに行きレトロな着物のコギレ市を楽しみわかれしました。

4/26-28 イスラエルより、リアさんとレイカさん。

リアは大学でファッションの歴史を教えていた60代で大迫力の女性。レイカは現役で造園業社長のしとやかな女性と対照的な二人で楽しい漫才コンビでした。彼女らは実は昨年4月に来る予約を頂いていたのですが、震災で今年になりました。晩御飯にイスラエルの食事を作ってくれました。ひよこ豆とにんにくのハムスは私の好物で本場の味を楽しみました。

土曜は子どもたちとイスラエルの歌や踊り、お菓子をいただき、自然界のスパイラルをデザイン化するワークショップも楽しみました。

IV トラベラー報告 受け入れ報告

サーバス会員報告書

T

1. サーバストラベラー認定

○旅行期間:2012年6月19日～2012年7月6日

○サーバスステイ先: スイス(チューリッヒ、シャウハウゼン)、ドイツ(レーゲンスブルグ)の三軒のお宅に滞在。

○感想

昨年サーバスのホスト会員となってから、初めてトラベラーの認定を受けてヨーロッパを旅してきました。今回の旅の大きな目的は、ゆっくりヨーロッパを旅すること、人々との交流はもちろんですが、サーバストラベラーとして旅をすることで、日本でのトラベラーの受け入れの参考にしたいというものでした。

そのため、行き先は二の次、なんとなく決めた旅のルート(ドイツ語圏のスイスと、南ドイツあたりという漠然としたものでした)に従って、随時メールを送り旅のルートを確定するという方法を取りました。大体ではあるものの日程を指定していたこともあって断られたり、メールの返事がなかなか来なかったり、ステイが決まったお宅を拠点に、旅のルートを何度も練り直したり、当初訪ねてみたいと思っていた街のルートを変更したり。思った以上に旅程を確定させるのに時間がかかりました。が、今回は、別の用事で4月末からルーマニアのシビウという町に滞在していたこともあり、のんびり構えて、とにかく一軒でもいいので、サーバスホスト宅にステイできればいい！と開き直って返事を待ちました。

結果的には三軒のサーバスホストのお宅と、シビウで知り合ったドイツ人のご夫婦宅(ドイツのLohr a Mainという小さな街)、そして、旅の途中パッサウという街のユースホテルで知り合った学生の女の子(ミュンヘン)のお宅にもステイさせてもらい、とても印象深い旅となりました。チューリッヒでは、80代の女性のお宅にステイさせていただき、1970年代の日本旅行、サーバスでの思い出を聞くことができました。また、5冊にも及ぶ分厚いトラベラーのメッセージブックなど、白黒写真の時代からの記録も見せていただきました。

今回の旅、前後のルーマニアでの滞在も含めて強く感じたのは、とても自然に、見知らぬ旅人である私を彼らの生活の中に受け入れ、もてなしてもらったことでした。彼らの日常に紛れ込み、と同時に、ただの日常ではない小さなスペシャルな時間も作ってもらえました。教えてもらったバス停から自宅までの帰り道で迷い、1時間雨の中をさまよったりもしましたが、これまで頭ではわかっていた(つमりの)様々なこと、「案外放っておいても何とかなる」「日本的なもてなしをしなくても、十分歓迎の気持ちは伝わる」「トラベラーの旅の計画をまず聞いて、必要なことをサポートすればいい」などなど、が腑に落ちました。帰国後、両親に今回の旅の体験を話すことで(上記の概念的なことだけではなく、洗濯やお風呂といった現実的な些細なことも)これからの私たちの高山でのトラベラー受け入れ際参考にすることができる一つの旅となりました。また、認定に関する手続きや連絡を待つ手間など、旅の前、すこし不便かな？と感じていたことも、信頼と安心を築くための必要なプロセスだったと、旅を通じて感じました。

このような様々な体験を得られたこと、温かく受け入れてくださったホストの方々、日ごろからサーバスの活動に携わる事務局の方々に感謝したいと思います。そして、同世代の友人知人

にもサービスの良さを伝えられたらいいな、と思いました。

2. サービスホスト報告

○3月、カナダからの女性一人

※家族がインフルエンザに罹ったため、急きょホテルに移ってもらい、デイホストとなりました。

○8月、フランスからのご夫婦

以上、2組の受け入れをさせていただきました。

以上